

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・ニセナシサビダニ No.1)

令和8年5月21日

鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

5月中旬現在、ニセナシサビダニの発生期時期は平年並、発生量は平年に比べてやや多くなっている。

2. 情報の根拠

(1) 5月中旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、殺ダニ剤無散布）におけるニセナシサビダニの新梢先端葉当たりの個体数は164.6頭（平年：54.9頭）で、平年に比べてやや多くなっている（表1）。

(2) 向こう1か月の気象予報から、発生最盛期は平年に比べてやや早い6月中下旬頃と見込まれる。

表1 ニセナシサビダニの発生活消長（園芸試験場、殺ダニ剤無散布ほ場）*

月・旬	本年**	平年***
5・上	2.8	26.6
5・中	164.6	54.9
5・下		302.8
6・上		597.5
6・中		858.2
6・下		862.7

*：殺ダニ剤無散布ほ場、1葉あたり寄生個体数（3樹10葉調査）

**：R3年度より調査樹を変更

***：平年値は過去8年（H30年～R7年）の調査結果から算出

3. 防除上注意すべき事項

(1) 密度増殖が著しい種（ハダニ類、サビダニ類など）は、発生初期の防除（初期密度の低い時点での防除）が重要である。また、ニセナシサビダニ被害の多少は新梢停止期の早晩の影響が大きい。

(2) 第1回目の防除は5月下旬頃を目安に実施する。薬剤はモベントフロアブル2、000倍液などを使用し、ニセナシサビダニが寄生している新梢先端部に薬液が十分付着するように散布する。

(3) 第2回目の防除時期は、6月上中旬頃と見込まれるが、今後の情報を参考にする。

〈参考〉

・発生量の記載

発生量の多少は中央値（median）の考え方を基に決定しており、発生の実態に即している。

そのため、本年値と平年値の関係が発生量の記載と一致しない場合がある。